

“LPガス”でCO₂排出量 実質〇へ貢献 カーボンニュートラルLPG



導入施設／皆生グランドホテル 天水



(株)皆生グランドホテル
代表取締役社長 伊坂明氏

政府は、2020年10月に「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を策定した。これは、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「カーボンニュートラル」を目指すもので、国の新たな成長戦略として見据えた一大プロジェクトだ。この施策に、LPガスの領域で貢献しているのがアストモスエネルギー(株)だ。

同社は、2006年にLPガス輸入販売元として設立。現在では国内約25%の販売シェアを占め、世界最大級のLPガス取扱量を誇っている。このLPガスは、敷地内にタンクを配備する分散型という特徴を持ち、エネルギーの備蓄ができるため、非常時にも困らない。さらに供給可能領域は国土面積全体の95%にのぼり、各エネルギーと比較するとCO₂の排出



日本海の眺望、豊かな料理が評判の地域一番店 皆生グランドホテル 天水。

量も相対的に少ないため、環境性の高いエネルギーだ。そして、同社が「持続可能な社会実現に向けて新たに提案しているのが、「カーボンニュートラルLPガス」(以下CN・LPG)だ。これは、LPガスの採掘から燃焼行程までで発生する温室効果ガスを、環境保全プロジェクトによって創出されたCO₂クレジットで相殺(カーボン・オフセット)することにより、利用に伴うCO₂排出を実質ゼロにするLPガスだ。

今回、同社の取り組みに賛同しCN・LPGを宿泊業界で初めて導入したのが、創業55年になる皆生温泉を代表する老舗旅館「皆生グランドホテル 天水」(鳥取県)だ。皆生グランドホテルは、本館である天水とは別に、1989年に新設した「華水亭」と2タイプの旅館を展開している。客室数は、天水

100室、華水亭79室と周辺エリアでは最大規模である。さらに、皆生温泉有数の自家源泉を両館に有しており、大浴場や露天風呂から見える海の眺望が素晴らしく、宿泊者にひとときのくつろぎを提供してくれる。

同施設を運営する(株)皆生グランドホテル代表取締役社長の伊坂明氏は、最近の環境問題への取り組みについて、「当旅館では、以前より浜辺のボランティア清掃活動を全スタッフで実施してきました。そのうえで、清掃活動中に多く拾う廃プラスチックのリサイクル活動を行うなど、環境に配慮した取り組みを推進してきました。そして最近、業界全体でもこうした環境への取り組みに関する話題が上がるが増え、当旅館でも脱プラスチックに関する企画を現在進行形で練り込んでいる最中です」と語る。

環境問題に取り組む宿として 認知・顧客満足度向上を図る

「CN・LPG導入の経緯ですが、販売代理店(株)松本油店の方からご紹介してもらったのが最初です。その話を聞くまでは、CN・LPGについて無知の状態でしたが、当旅館でも環境への取り組みを推進していること

もあり、導入を決定しました。導入することで、当旅館内のスタッフ間で環境対策への意識づけができるほか、宿泊を検討している方や宿泊者など、対外的にも認知してもらい、当旅館への関心度・顧客満足度向上を図っています(伊坂氏)

導入に際して、(株)皆生グランドホテル、アストモスエネルギー(株)、(株)松本油店の三者間で調印をし、昨年の11月14日にCN・LPG証明書授与式を執り行った。この証明書は天水のフロントに飾られており、チェックイン・チェックアウトの際には宿泊者の目につく配置になっている。皆生グランドホテルでは、大浴場向けボイラーや館内空調設備等にCN・LPGを利用している。敷地内におよそ2七分のバルクタンクを設置することで、常時利用することができる設計となっている。また、CN・LPGは現行のLPガスにカーボン・クレジットを付与しての販売になるため、従来利用のLPガス設備を含めた物理的な変更が生じないというのも特徴だ。ここで言うカーボン・クレジットとは、温室効果ガスの排出削減または吸収するプロジェクトを通じて生成される

排出削減・吸収量を価値化したものである。そして、皆生グランドホテルで想定されているCO₂排出削減効果は、年間約165t・CO₂にもなる。

地域を牽引する旅館として 米子市全体を盛り上げていく

今後の展望について伊坂氏は、「導入をこれからまだ数か月ですが、他の旅館さんから数件お問い合わせをいただきました。今後は海外、特に欧米の方々はSDGsへの関心が高いと思いますので、さらなる反響に期待しています。今春より、台北・米子及びソウル・米子のチャーター便の運行が可能になると聞いています。コロナウイルスの流行以前は、インバウンドの比率はあまり高くありませんでしたが、これを機に足を運んでもらい、平日の稼働回復に期待しています」と前向きに語る。

また、伊坂氏は2021年より設立した「皆生温泉エリア経営実行委員会」の会長を務め、皆生温泉関係者と協議して様々なイベントを企画している。

「昨年には、2年間延期していた第40回全日本トリアスロン皆生大会を開催し、1000人ほど参加していただきました。トリアスロン日本発祥の地として、今後とも盛り上げていきたいです。そして、海岸遊歩道のライトアップを今年度中に企画しているほか、空き店舗や空き地の再利用にも着手しており、最近では徐々にそれらが埋まりつつあります。こうした活動を通じて、皆生温泉エリアを町歩きしやすい環境にしていくと日々検討しています。そのためには、旅館から町

おこしを積極的にしていく必要があり、今後とも地域を牽引していけるよう精進してまいります」(伊坂氏)

先述した皆生温泉エリア経営実行委員会は、エリアの宿泊客数が約40万人(平成31年)から約26万人(令和2年)に減少した状況下で、「皆生温泉の30年後を見据えた投資を進めていきたい」という関係者の強い思いから発足されたものだ。奇しくも、冒頭で述べた政府のグリーン戦略と同委員会の目標期間が重なっている。エリア全体としての需要回復、環境問題を中長期的な視点で見なければいけないのはもちろんだが、まずは出来ることから始めていくのが先決だろう。つまり、皆生グランドホテルが今回CN-LPGを導入したことは、カーボンニュートラルに向けた非常に大きな一歩といえるだろう。



CN-LPGは天水の大浴場と空調に活用されている。



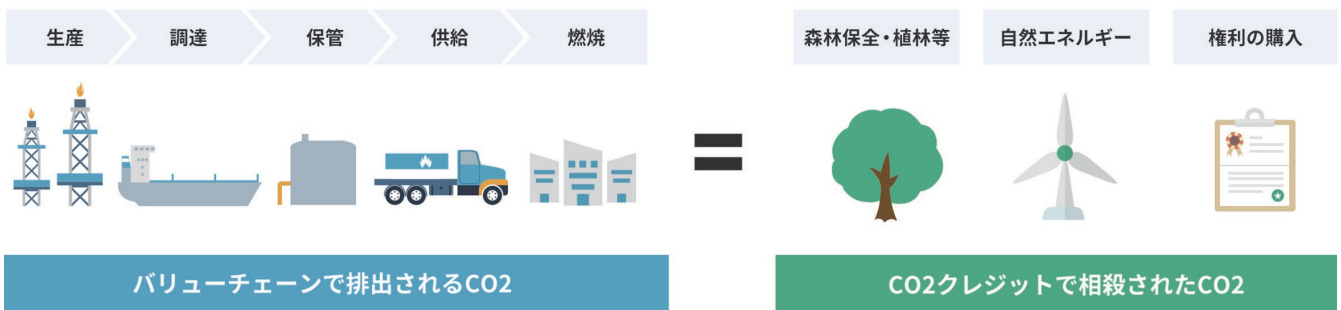
皆生グランドホテルに設置されているCN-LPGタンク(約2t分)。



天水のフロントに飾られているCN-LPG取扱いの証明書。

CN-LPGとは…利用により発生するCO₂排出を実質ゼロにするLPガス

【イメージ図】 CO₂排出量を実質ゼロにする仕組み



カーボンニュートラルLPGの導入事例やより詳しい情報は、特設ページにてご紹介しております。下記二次元コードより是非一度ご覧ください。



アストモス エネルギー

東京都千代田区丸の内1-7-12サピアタワー 24F ☎050-3816-0700

特設ページはこちらから →

<http://www.astomos.jp>

